

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001.2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 202

日本野鳥の会 埼玉県支部

超望遠ビデオのノウハウ II

海老原美夫(浦和市)

昨年4月号(192号)でフィールドスコープ+小型家庭用ビデオカメラの超望遠システムを解説し、「今回は、撮影上の工夫と映像の活用方法を」としておいたところ、思いがけず、何人かの方から、まだ続編は掲載されないのかとお問い合わせをいただきました。ビデオ撮影に興味のない方には申し訳ありませんが、今回はその続編です。

● ガンマイクのすすめ

ビデオカメラの内蔵マイクのままで撮影すると、画面では野鳥がさえずっているのに、音声はカメラ近くでガヤガヤやっている人の声しか入っていないという、不自然な状態になります。その場所での、人々の反応の臨場感を出すためにあえてそのように編集する場合もありますが、通常は、野鳥の映像とさえずりの音声を一致させたいものです。

内蔵マイクで、望遠に切り替えられるものもありますが、フィールドスコープと組み合わせる超望遠には、性能が追いつきません。狭指向性マイク、いわゆるガンマイクと呼ばれる外部マイクが必要になってきます。右下写真の画面右上に見えています。

パラボラ型の集音マイクを使っている人もいますが、これは余分な音も拾ってしまいます。余分な音をカットして、必要な音だけを拾いたいという引き算の考え方で、私はガンマイクのほうが良いと考えます。

ガンマイクでも、カメラ近くの人の声を完全にカットすることはできませんが、映像との関係が、より自然になります。

● 手作り照準のすすめ

さて、機材がうまく組み合わせあって、いよいよ撮影です。

ところが、いざとなると、あそこに鳥が見えているのに、なかなかファインダーに入らないのです。早くしないと飛んじゃうぞと、あせりにあせって、ようやく見えたと思ったとたん飛び去ります。

それぞれの機材と好みに合わせて、各自が照準の工夫をしています。

右上写真は、K氏の例です。画面中央の上に見えているのが照準器です。模型店で売っていたエアガン用のものを、様々な金具を組



み合わせて取り付けた労作です。この照準器で鳥を中央に入れてから、目を画面右のカメラファインダーに移して、撮影するという方法です。同様な発想で、小さなパイプをカメラの上にはりつけたり、レンズフード中央に金具を取りつけている人もいます。

しかし、それでは一度鳥の姿を捉えてから、ファインダーに目を移すというワンクッションが必要になりますので、動きのある鳥は写しにくくなります。

私は、ごく簡単に、レンズフードの斜めの



位置に、事務用のクリップを取り付けています。右目でファインダーを見ながら、左眼でクリップの位置と鳥の位置を合わせ、そのまま撮影します。

顔の位置が少しずれると照準の位置が変わ

りますので、熟練が必要ですが、ファインダーに目を当てたままですから、場合によっては、飛んでいる鳥も写せます。

鳥が現れるのを待つ間に、照準の工夫をいろいろ考えたり、練習したりするのも、楽しい時間つぶしです。

●編集のすすめ

フィールドスコープを通して撮影するとき、ある程度以上ズームをテレ側にしないと画面がケラれます。しかし、テレいっぱいにするより、ケラれる寸前までワイド側にひいた方が、画質が良くなります。その他の撮影方法は通常のビデオ撮影と同じですから、一気に、撮影した映像の活用に話を移します。

「編集」というと大変難しそうな感じがしますが、ビデオカメラの出力端子と、家にあるビデオデッキの入力端子をつなげば、ダビングできるということはわかりますよね。その際に、失敗した画面はカットし、うまく撮れた場面だけをつないでダビングする、これが編集の第1歩です。

一度ダビングしたテープの、気に入らない部分を入れ替えたり、ナレーションや音楽を入れたくなったら、編集の2歩目です。

そのためには、映像と音声が入り込んで、映像のつなぎ目に虹のようなちらつきが出ない、編集用のビデオデッキが必要です。編集用ビデオデッキとして今最も一般的なのは、S-VHSです。VHSでは、画質的に不十分です。最近ではデジタルのデッキも大分安くなってきています。将来的には、ハードディスクビデオなども視野に入ってくるでしょう。

タイトルやテロップを入れなくなったらタイトラーが、ナレーションと音楽をきれいにし入れなくなったらミキサーが、それぞれ必要になってきます。

編集し終わったテープを更にダビングして人に見てもらいたい時は、もう1台のビデオデッキが必要です。この場合は、普通のVHSでもかまいません。

こう書いてくるとずいぶん大変なようですが、実はここまで全部を、高価な大望遠レンズとスチールカメラを合わせた金額と、大差ない費用でそろえることもできますし、最初から全部そろえる必要はなく、段階に応じて、

順番に買い足していけばよいのです。

●パソコン編集のすすめ

私自身は最近パソコンでビデオ編集をしています。パソコンはソニーのPCG-XR7G、編集ソフトはAdobe Premiere 5.1。パソコン自体の容量が小さくても、40ギガバイトの外付けハードディスクをPCカードスロットにつなぐことで、1時間程度のビデオ編集ができるようになりました。

例によって、パソコン関係の解説本は大変わかりにくいのですが、詳しくは、何とかそれをお読みください。将来的には、こちらのほうが主流になるかもしれません。

●いよいよ作品発表！

画面がゆらゆら揺れ続ける「船酔いビデオ」や、同じ画面が延々と続く「退屈ビデオ」はつらいですね。揺れてしまった画面は思い切ってぱったりカットし、ひとつの画面は数秒間ずつでつないで行くということを心がけるだけで、ずっと見やすい画面になります。

作品か、作品らしきものができたら、まず『しらこぼと』袋づめの会です。作業が終わった後、お茶を飲みながらビデオを見るのを、みんな楽しみにしています。

●静止画のプリント

ビデオカメラにビデオプリンターという数万円程度の機械をつなぐだけで、手軽に葉書サイズのプリントが楽しめます。

私はDvgate stillというソフトを使って静止画像をパソコンに取り込んでから、プリントしています。

静止画プリントの発表の場は、『しらこぼと』誌上です。どんどん編集部にお送りください。お待ちしております。

●遠くからそっと

動く連続映像は、普通の写真に比べて格段に情報量が多く、細かい識別や行動の分析などに大変役に立ちます。

また、超望遠ビデオは、普通の写真よりずっと遠くから野鳥を写せます。それだけ野鳥に与える影響が少ないと言えます。マナー違反は論外です。遠くからそっと、野鳥たちの姿を撮影させてもらっています。

2000年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

2000年冬の本調査当日、天候不順のためカウント調査が一部しか実施できませんでした。調査を行って頂いた方ありがとうございます。

1月8日、10日、12日の調査結果を報告いたします(表)。

(小荷田行男)

調査地	荒川	古利根川		利根川	武蔵丘陵 森林公園	白幡沼	黒浜沼	元荒川		総計
調査範囲	道満 (荒川第一 調整池)	寿橋~ 堂面橋	藤塚橋~ 古利根橋	板東大橋 下流	公園内の 池全部	沼全部	上沼	今宮橋 ~八幡橋 ~清掃局	城北大橋 ~水管橋	
地域	戸田市	越谷市 松伏町	越谷市 春日部市	本庄市	滑川町	浦和市	蓮田市	蓮田市 白岡町	岩槻市	
オシドリ					5					5
マガモ	71			143	876		3			1,093
カルガモ	80	3	30	97	67	3	60	197	102	639
コガモ	109	9	40	413	58		18	228	139	1,014
ヨシガモ				33	5				1	39
オカヨシガモ	56		22	148						226
ヒドリガモ	24	261	23					1	54	363
オナガガモ	12	120	5	27	7	11		39	58	279
ハシビロガモ	18		8	7	4			49	32	118
ホシハジロ	105				45	8	1			159
キンクロハジロ	55				11					66
ミコアイサ	16				1					17
カワアイサ				16						16
種類	10	4	6	8	10	3	4	5	6	13
合計	546	393	128	884	1,079	22	82	514	386	4,034
調査者数	1	1	1	1	2	1	3	3	1	14

秋の白馬探鳥会に参加して

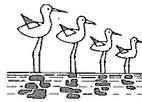
坂戸市 前川佳子

白馬探鳥会には二度の申し込みが外れた後での三度目の正直で、やっと念願が叶っての参加となりました。

大峰高原では、マミチャジナイの群れ、ツグミの群れに出会い、続いてアトリの群れの歓迎を受けました。合間に植物や昆虫の確認もしながら次の居谷里湿原へと移動。入口の人家周辺でミヤマホオジロやアオジに出会い、ハナノキを探しながら奥に進むとハンノキの梢でマヒワの群が好物のハンの実を啄んでました。白馬への途中、立ち寄った青木湖にはマガモ、オシドリ、キンクロハジロのほかカンムリカイツブリなどが浮かび、陽も陰る前の姫川ダムではホシハジロ、オシドリ、アオサギ、カルガモなどの水鳥が遊んでいました。宿に着くや、その足で近くの梅池温泉で疲れを癒し、恒例の夕食懇親会に臨みました。そ

の席には地酒を含む数種の酒類が並べられ、全員満足の様子でした。自己紹介に続き、鳥の情報交換などの楽しい話題に華が咲き、丁度11月3日は私の誕生日と重なり、思いがけなく皆様からの祝福を受けることとなりました。フィナーレはリーダー撮影の鳥のビデオを見て就寝。和やかな一夜となりました。

翌4日は早朝6時に宿を出発。モルゲンロートを見に浅間山林道方面へ。夜明け前の薄暗い中、しばらく待つと白馬連山の尾根のみが朝焼けで赤く映し出されたような、その幻想的な一瞬の風景に大きな感動を覚えました。本当にラッキーでした。その後、周辺探鳥。宿自慢の朝食とコーヒーを済ませ、落合林道への探鳥となったが、お目当ての赤い鳥の姿はありませんでした。昼食後は柳林を經由し姫川源流へと移動し、ここでベニマシコ、カシラダカを締め括りとして今回の鳥合わせとなりました。楽しい2日間でした。



鳥鳥情報

大宮市日進町1丁目 ◇10月23日、アオジ今季初認。11月6日午前9時30分、シメ2羽、ジョウビタキ1羽。いずれも声で今季初確認。11月13日午前9時30分、猛禽に襲われたと見られるアオバトの羽毛が多量に散乱していた。11月22日午後1時30分、ビンズイ2羽、今季初認(森本國夫)。◇11月24日、ツグミ1羽、シメ1羽、ビンズイ2羽、ヤマガラ1羽(浅見健一)。

大宮市宮ヶ谷塔 ◇11月12日、国道16号線上空でツミ1羽、カラスにモビングされていた(藤原真理)。

大宮市大谷 ◇11月20日午後2時、環境広場でハクセキレイがやたら多い中、セグロセキレイ、タヒバリ約10羽、イカルチドリ10羽、タシギ約10羽、ツグミ3羽、クサシギ1羽。11月22日午後3時頃、広場脇の用水でクサシギ2羽、タカブシギ1羽、タシギ1羽(鈴木紀雄)。

大宮市三橋 ◇11月24日、鴨川でユリカモメ成鳥1羽若鳥1羽、今年は早い飛来。イソシギ1羽。三橋運動公園でネズミモチの枝の中でアオジ2羽(浅見健一)。

戸田市戸田公園 ◇11月1日、アカハラ4羽、マミチャジナイ2羽(高橋達也)。

戸田市荒川 ◇11月1日、戸田橋付近の河川敷でハマシギ2羽。11月4日、ホオジロガモ♀2羽、ダイゼン1羽、トウネン1羽、タシギ1羽。11月10日、コミミズク1羽

(高橋達也)。

戸田市道満彩湖 ◇11月3日、ハマシギ1羽。

11月18日、ホオジロガモ♀1羽。11月19日、ミミカイツブリ1羽(高橋達也)。◇11月9日、右岸でアカモズ1羽(陶山和良・順子)。◇11月12日、貯水機場北側の池周辺の立ち木でツリスガラ♂2羽♀2羽。アカモズをあきらめての帰り道(山部直喜)。◇11月23日、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、ミコアイサ♀1羽、トモエガモ♂1羽、ハヤブサ1羽、チョウゲンボウ1羽、ベニマシコ♂♀、アカモズ1羽(後藤康夫、北村隆、澤井清)。◇11月24日午後、鉄塔の上でハヤブサが羽づくろい。カンムリカイツブリ、ミコアイサ♀約10羽。西側アシ原でアカモズ(?)幼鳥1羽、アリスイ1羽(鈴木紀雄)。◇11月25日、ベニマシコ1羽、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、ウミネコ。11月29日、ミコアイサ1羽、コジュリン1羽、アカハラ1羽。釣り堀の林でツリスガラ2羽。風のはらっぱでミミカイツブリ1羽。いつもの鉄塔上でハヤブサ1羽(倉林宗太郎)。

戸田市道満パーク ◇11月9日、オオバン、バン、カイツブリ、モズ、ハクセキレイ、ヒバリ(陶山和良・順子)。

浦和市曲本1丁目 ◇11月8日、ジョウビタキ♀1羽、メジロ(陶山和良・順子)。

浦和市間宮 ◇11月22日、民家園でルリビタキ♀1羽が落鳥していた(石井智)。

川口市差間 ◇11月11日、調節池造成中の東側の池でサルハマシギ1羽、嘴が長めで黒く、白い肩斑と腹が白いのが気になり、ガイドブックで確認(陶山和良、岩井義雄)。

蓮田市黒浜沼 ◇11月6日午後3時頃、オオバン、カシラダカ、チュウサギ、ホオジロガモ♂第一回冬羽と思われるカモ1羽(鈴木紀雄)。

春日部市内牧 ◇11月7日午前10時頃、シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群中にコガラ1羽。アカハラかシロハラの声とシルエット(鈴木紀雄)。

和光市広沢 ◇11月16日午前10時頃、理化学研究所構内のビルの4階で仕事の途中、ふ



11月3～4日 白馬探鳥会

と顔を上げたら窓の外の非常用通路にトラツグミが落鳥しているのを発見。5分程後、仕事の手があいたので死体(?)回収に向かったが、現場には羽毛が少し落ちているだけで、本体は影も形もなし。カラス、猛禽などが丸ごと銜えていったのか(人間が入り込む可能性は低い)? 一時的な脳震盪からよみがえって、元気に飛び去ったか? 後者であることを願いたい(小林みどり)。



11月26日 清水公園探鳥会

三郷市 ◇11月21日午前9時30分頃、常磐道三郷インター手前でガンsp6~7羽。カギ形になって上空を北から南に高速道路を横切るように飛んでいった。研修旅行で乗っていたバスの真上を通過(藤原寛治)。

川本町荒川 ◇11月3日、明戸堰上流でコハクチョウ29羽、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ♂♀計7~8羽、ホオジロガモ♂4~5羽、ハマシギ3羽、サルハマシギ3羽、イソシギ1羽、ピンズイ2羽、ジョウビタキ♂1羽、カシラダカ14~15羽(後藤康夫、北村隆、澤井清)。11月26日、同所でコハクチョウ65羽、ハジロカイツブリ1羽、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホオジロガモ♀4~5羽(後藤康夫、北村隆)。

寄居町玉淀湖 ◇11月3日、オシドリ約120羽、アオジ2羽、エナガ、ヤマガラ、カワセミ、トビ、アカゲラ(後藤康夫、北村隆、澤井清)。

熊谷市河原町2丁目 ◇11月6日午前7時40分、ジョウビタキ1羽。駅に向かう途中で鳴き声が聞こえた。しばらく捜していたらTVアンテナから飛び立った(森本國夫)。

大里村箕輪 ◇11月5日午後2時30分頃、荒川の大芦橋の近くの水田でタゲリ60羽。広

域農道を車で走っていたら前方に鳥の群れが見えた。最初はドバトかと思ったが、よく見るとタゲリ。車を止めて行方を見ていると、近くの水田に降りたので車で近づいて観察した。このあたりでは時折少数を見かけることはあるが、今回のような群れは初めて。まだ渡ってきて間もないのではないかと思われる(森本國夫)。

渡良瀬遊水地 ◇11月11日、ミサゴ、チュウヒ、ノスリ。池の岸でアオアシシギ10羽の中にツルシギ1羽。午後4時、ハイイロチュウヒ♀3羽罅入り(鈴木紀雄)。

北本自然学習センター ◇11月14日、コガラ1羽。ウソの鳴き声を聞く(石井智)。

横瀬町県民の森 ◇11月18日、アカウソ♂♀各1羽、コアジサイの実をついばんでいた(小林ますみ)。

吹上町大芦 ◇11月23日午後2時、アマツバメ2羽、大芦橋上空を飛んでいた(森本國夫)。

嵐山町將軍沢 ◇11月25日、ベニマシコ♂♀、アカゲラ♂1羽、ノスリ。ルリビタキ、ガビチョウのさえずり、カワセミ(後藤康夫、北村隆)。

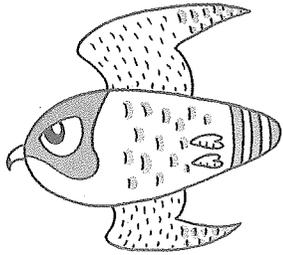
吉見町地頭方 ◇11月25日、田んぼでシラコバト1羽(石井智)。

表紙の写真

ノスリ(ワシタカ目ワシタカ科ノスリ属)

撮影:菱沼一充(板橋区) ユーラシア大陸に分布していて、北方のものは渡りをするが、暖かい地域のは年中留まる。日本では、北海道から四国の低山で繁殖する。県内では多くが冬鳥。開けた農耕地や河原などの上空で、先の丸い尾羽を広げて帆翔とホバリングをする。クソトンビ、ノウナシタカ、ウマノクソサライ、ピッキタカ、ノスコ、ノリスリなど、多くの俗名がある。(解説:編集部)

行事あんない



(何森 要)

寒さの厳しい季節です。防寒対策をしっかりとってお出かけください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：2月4日(日)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、田中、長嶋、長野、松永

見どころ：小鳥達の姿を見つけやすい季節です。沼やアシ原にいる身近な鳥たちと、道端の植物が示している春の兆候を楽しみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発→「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、高(文)、立岩、永野(安)、永野(京)、高(剋)、山田、今井、山野

見どころ：越冬中のベニマシコ、ルリビタキ、カヤクグリ、アリスイなどを探します。天気がよければ秩父の山並をバックにワシ・タカ類も飛んでくれるでしょう。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

期日：2月4日(日)

集合：午後2時、浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大門経由さいたま東営業所行き13:20発、または東川口行き13:30発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、松堂、前澤

見どころ：午後からの探鳥会です。枯れ野の調節池周辺で越冬中の冬鳥たちを探しましょう。

注意：調節池工事状況によってはヘルシーロードコースに変更の場合もあります。

大宮市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(日)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。

また午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口より徒歩5分)。

担当：工藤、櫻庭、藤原、森(力)、松永、日根、山口、有馬、赤坂、松村

見どころ：去年は芝川でカワセミをじっくりと観察できました。今年も大いに期待しましょう。早春の息吹きを感じながら斜面林、田んぼ、芝川に鳥たちを探して歩きます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居
9：03発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、
松本、高橋、後藤

見どころ：来月からはもう冬鳥の旅立ちが始
まります。今のうちに冬らしい野原を
味わってみませんか。身が引き締まり
ますよ。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月12日(月・祝)

集合：午前7時30分、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口5番バス乗り場
より、西上尾車庫行き(畔吉経由)7：
07発にて「前原」下車、徒歩約10分。

担当：高(文)、阿久沢、永野(安)、永野(京)、
高(尅)、山野

見どころ：エイっ！と気合いを入れて床から
出てください。きっとカラ類の混群や、
アソ原の冬鳥たちに会えるでしょう。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月15日(木)

集合：午前9時20分、彩湖道満グリーンパー
ク中央駐車場。

交通：京浜東北線南浦和駅西口3番バス乗り
場より、「下笹目」行き8：45発→武
蔵野線武蔵浦和駅8：52発→「彩湖道
満グリーンパーク」下車。

担当：倉林、中村(榮)、高(文)、森(秀)、
有馬

見どころ：道満から彩湖の北部まで、ゆっく
り鳥たちを探しながら冬の日を過ごし
ませんか。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：2月17日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：もりだくさんの行事の中に埋もれてし
まいそうですが、どうぞお忘れなく。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：2月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：見沼たんぼに早春の香りがする。
屋敷林のあたりから梅の香りが匂って
くる。冬鳥は勢ぞろいで来るべき春に
備えている。いつもの普通の鳥たちだ
けど、お出かけください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月18日(日)

集合：午前9時40分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園
南口行き9：17発バスにて、終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、石井(幸)、
青山、喜多、後藤

見どころ：過去の5年間で3回も雪や雨で中
止になっているけれど、今年はすっき
りと晴れて欲しい。アフターには梅の
香の中でお弁当をひろげよう。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月18日(日)

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口。

集合後、十王バス9：10発、新伊勢崎
行きにて「坂東大橋南詰」下車。現地
集合可。駐車は土手側のみ。

担当：北川、倉崎、林(滋)、堀(敏)、堀(久)、
小池(一)

見どころ：今年もカワアイサは渡って来てい
るでしょうか。カモは何種類？ 上空
のワシタカにもご期待を。現地にはト
イレがありませんのでご留意ください。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月24日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越
えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口より、東武バス
鳩山ニュータウン行き8：58、9：08

発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5分（バス進行方向へ進みます）。

担当：島田、岡安、藤掛、志村、立岩、後藤、吉田（時）、林（久）

見どころ：尾根づたいに歩き、ルリビタキ、シロハラ、アカゲラを探します。山間に広がる農地には、ジョウビタキ、カシラダカ。春の七草も探しましょう。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月25日（日）

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：高草木、佐久間、石井（幸）、志村、神場、中村（治）、中村（祐）、荒木、中村（隆）

見どころ：冬鳥が旅立ちの準備を始めました。タゲリ、タシギ、タヒバリとカモたちを見送りに出かけましょう。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月25日（日）

集合：午前8時40分、東武野田線岩槻駅前。

または午前9時20分、文化公園駐車場（国道16号側）。

交通：東武野田線大宮8：19発柏行き、または春日部8：24発大宮行きにて岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：中村（榮）、吉安、橋口、玉井、入山、松永、田中、長嶋、長野

見どころ：今回はアオゲラ、アメリカヒドリ、パンなどが見られました。今度はどんな鳥たちと、どんな春が見られるでしょうか。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月25日（日）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：小池（一）、小淵、倉崎、堀（敏）、堀（久）、小野沢、藤田

見どころ：大海原に浮かぶ小島のように、市街地に残された里山ですが、シロハラ、ビンズイ、ククイタダキなどの越冬地です。小さな自然を観察に来ませんか。

県内野鳥記録の追加情報

日本野鳥の会埼玉県支部野鳥記録委員会

●ミヤマガラス

分類 スズメ目カラス科カラス属

学名 *Corvus frugilegus*

英名 Rook

昨年12月5日（火）、蓮田市と伊那町の境界を流れる綾瀬川付近の水田で小峯昇氏（岩槻市）が発見し、その後写真撮影しました。

同氏の観察報告によれば、ハシボソガラスの群れに混じっていたがミヤマガラスだけで行動し、警戒心が強く、7-8羽から、10羽程度いたのではないかとの事。

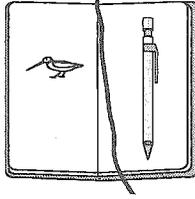
県内初。県内鳥類目録としては、306番目の記録。

本種はヨーロッパから、中央アジア、中国に分布し、日本では、西日本に冬鳥として飛来しますが、近年関東地区での報告が聞かれ、県内で記録されるのも間近いと考えられてい



ました。

和名漢字は「深山鴉」と書きますが、実際は平地の開けたところに生息し、英名は、古い英語の擬声語に由来します。



行事報告

10月21～22日（土～日）長野県戸隠・飯綱高原

参加：34人 天気：両日とも曇後時々晴

カイツブリ オシドリ マガモ カルガモ トビ
 キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ
 キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビ
 ンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ クロツグ
 ミ アカハラ マミチャジナイ シロハラ ツグ
 ミ ウグイス メボソムシクイ キクイタダキ
 エゾビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒ
 ガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ
 カワラヒワ マヒワ イカル ニュウナイスズメ
 スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス（46種）バスで高度を稼ぐと周囲は次第に秋色
 に。一の鳥居ではアトリの群れに囲まれながら早
 い昼食をとる。黄金色のカラマツ林を台座法師池
 に下る。林床には色々なキノコが顔をのぞかせる。
 真っ赤なベニテングダケが印象的だった。翌日も
 まずまずの天気。森林植物園でツグミ、アカハラ、
 シロハラ、そしてお目当てのマミチャジナイ、な
 ぜかクロツグミ。数が多くて視点が定まらない。
 途中、アトリの群れ、カラの混群にも出会いなが
 ら、お腹を空かせて牧場へ。キノコ汁で身も心も
 暖まって無事探鳥会を終了。（菱沼一充）



11月3～4日（金～土）長野県 白馬山麓

参加：25人 天気：晴

カムリカイツブリ コサギ アオサギ オシド

リ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ
 ホシハジロ トビ ノスリ イカルチドリ キジ
 バト アオバト カワセミ アオゲラ アカゲラ
 コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
 レイ ヒヨドリ モズ マミチャジナイ ツグミ
 ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ
 シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ
 カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ
 カワラヒワ マヒワ ベニマシコ ウソ イカル
 スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス（47種）大峰高原でリーダー紹介を行っていると、
 梢にマミチャジナイの群れが到着。観察を開
 始。唐花見湿原、居谷里湿原、矢崎湖、青木湖、
 「一步」の周辺と風景だけでも十分楽しいのに、
 47種の野鳥の他、実のなる木22種類、紅葉などそ
 の他の樹木23種類、実や種のある山野草26種類、
 昆虫9種類、動物1種類を観察した。夜は露天風
 呂で疲れを癒し、2日目の朝はラッキーにもすご
 くきれいなモルゲンロートも見られた。白馬はぜ
 いたくな場所。ただ、年々鳥相が薄くなっている
 ような気がするのだが。（小池一男）

11月18日（土）『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：15人

海老原教子、尾崎甲四郎、島田恵司、島田沙織里、
 島田貴子、志村佐治、納谷美月、橋口長和、福井
 昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、百瀬修、山
 野豊、渡辺嘉男

11月19日（日）浦和市 三室地区

参加：62人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ヒ
 ドリガモ オオタカ キジ パン タゲリ タシ
 ギ コチドリ ユリカモメ セグロカモメ キジ
 バト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキ
 レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ

ジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 三室の里は参加者を裏切らずに歓迎の挨拶をした。ツグミやタゲリやジョウビタキは北の国から、アオジ、メジロたちは山からやって来た。そして、ユリカモメやセグロカモメは海の匂いを運んで来た。季節の恵みに感謝した探鳥会であった。(楠見邦博)

11月23日(木、休) 本庄市 坂東大橋

参加: 34人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ トビ チョウゲンボウ キジ ハマシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) ポカボカ陽気。キジのペアのお出迎えでスタート。上空を舞うチョウゲンボウをじっくり見られた。河原に出ると、ヨシガモやオカヨシガモ、それにミコアイサの姿も。解散後、オオタカ、ノスリ、セッカ、ツグミが出た。(北川慎一)

11月23日(木、休) 春日部市 内牧公園

参加: 31人 天気: 晴

カワウ コサギ オオタカ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 公園の池でシジュウカラ、コサギを見た直後、ハシボソガラスが柿をくわえて飛んでいくのを皆で笑いながら見る。雑木林の中でツグミ、ジョウビタキそしてアオジなどの冬鳥が出てくれる。珍しく上空をオオタカが飛んでくれ、刈田の中では、いつもより少ないが、ヒバリ、タヒバリを観察する。(吉安一彦)

11月26日(日) 野田市 清水公園

参加: 39人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ オオタカ キジ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ

ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 出現鳥が少なく、心配された出足だった。でもツツジ山ではアトリの群れを、また駐車場ではジョウビタキが自動車のガラスに映った自分とにらめっこをしているのを全員がみることができ、大満足。遊水池では上空にオオタカが出現したが、反面、期待した水鳥たちがほとんど逃げ去った後で、残念。(中村榮男)

11月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 40人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ トビ コジュケイ バン イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 入間川では、コサギ、ダイサギ、アオサギの群れが100羽余り乱舞する姿と、カワセミもじっくりと観察。稲荷山公園では、定番のビンズイとキセキレイ、カシラダカ等が出現し、鳥合わせのタイミングを遅らせるほどだった。(藤掛保司)

12月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 34人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ ホオジロガモ トビ バン キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 木の葉もあらかた落ち、鳥が見やすくなったのに、河川工事のせい、カモ類以外の冬鳥は6種類と少なかった。カモ類も白鳥の餌場に集まり、堰よりやっとな識別できる程度で淋しかったが、久々に見られたカワセミが救いだっただ。(和田康男)

連絡帳

●干潟を守る日2001

諫早湾が閉め切られて広大な干潟が消滅することになった1997年4月14日を忘れない為に、4月14日を「干潟を守る日」とすることが、全国の自然保護団体の賛同を得て、1998年春に宣言されました。

第1回の「干潟を守る日1999」では、全国から約30の団体が参加し、昨年の「干潟を守る日2000」には参加団体が40以上に増えた一方、7月には、発起人の一人、山下弘文氏が急逝するという出来事がありました。

今年も、「干潟を守る日2001」実行委員会では、山下氏の遺志を引き継ぎ、干潟・湿地保全の潮流をさらに確かなものにする為、準備を始めています。

●国有林の将来構想は？

国有林の管理経営を、従来の木材生産機能重視から公益的機能重視に転換した国の方針に基づき、農林水産省埼玉森林管理事務所（秩父市）は、県内の国有林を国民の森林とするアクションプログラム構想を作る為、当支部に意見を求めてきました。

支部役員会では、野鳥を中心とした自然を守るという野鳥の会の原点に、本当に役に立つ機会となり得るかどうか、資料を取り寄せるなど、慎重に検討を進めます。

●リーダー名簿の整理など

昨年9月のリーダー研修会を終えて、役員を含む支部リーダー名簿は、137名に増えました。しかし、中には、様々なご事情からリーダー活動を休んでおられる方も、何人か見かけられません。

普及部（榎本秀和部長）では、リーダーたちに送っている普及部便りの費用や労力の面も考慮し、個々のご事情などを慎重に勘案しながら、ある程度リーダー名簿を整理し直すかと、話し合っています。

また、学校の総合的な学習などで、平日の指導依頼が増えてきていることから、特に平日に指導できるリーダーの名簿を新たに作成

することも検討しています。

●会員の普及活動

11月12日（日）と19日（日）の2日間、松伏町中央公民館主催のバードウォッチング教室が開催され、橋口長和幹事と田邊八洲雄リーダーが指導しました。

小学館自然観察会主催の探鳥会が、12月10日（日）、浦和市三室地区で開催され、海老原美夫副支部長が指導しました。

坂戸市「ふるさとの川高麗川を考える」の第10回野鳥観察会が、12月17日（日）、同市鶴舞・浅羽地区で開催され、増尾隆リーダー・増尾節子・坂口稔・坂口和子会員らが指導しました。13人の参加者が32種の鳥を観察。オオタカとチョウゲンボウの空中戦が一番の見せ場となりました。

●2月の事務局 土曜と日曜の予定

3日（土）編集部・普及部・研究部会議。

4日（日）シラコバト見つけ隊。

10日（土）校正作業。

17日（土）袋づめの会。

18日（日）役員会議。

●会員数は

1月5日現在2,874人です。

活動報告

12月16日（土）1月号校正（海老原美夫）。

12月17日（日）役員会議（司会：高文子、愛鳥週間表彰者推薦依頼・国有林の将来構想に関する意見依頼・その他）。

12月25日（土）1月号発送（倉林宗太郎）。

編集後記

年末年始は大分に帰省し、親孝行。

上京の途中宮崎に寄って、コウノトリとヘラサギをライフリストに加えました。

ついでに鹿児島まで足を伸ばして、開聞岳→指宿温泉→韓国岳を楽しみました。

親孝行というのは、いいものです。

（山部）

『しらこぼと』2001年2月号（第202号） 定価100円（会員の購読料は会費に含まれます）
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

（財）日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 （本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします） 再生紙使用